

短歌

令和四年度阿南市文化祭秋季短歌誌上大会選

自由題 入選

黙禱に顛つは白菊特攻の振りしチーフよ和田島の磯

燃える太陽の西にかたむく畑の中季節の移ろい告げる蟋蟀

炎昼に真向いて咲く白木槿はもの言わぬ物悲しくもあり

負傷した夫を案じてタカさんが稲刈りしてくださる汗よ貴し

助手席に楽しく喋る老母がいる野菅草咲く病院通いも

ささやかな吉報ありて玄関のカサブランカは終日かをる

片陰を選びて歩く商店街ひとつシャッター又閉ざされる

日すがらの夏日の花壇に夕の水やればゴクリと音の聞こえる

国家とは政権とは民主主義とは自由とはみんな考えてくれい

ツクツクと法師蝉鳴く立秋のお墓の掃除継ぐ者のなし

亡夫の腕に五十二年を守られて消しゴム使用の思い出笑まう

一茎に八輪咲いた夏水仙は居間の小さな打ち上げ花火

また一つ歳を重ねし今日からも平和な日本に生きていきたい

鹿島壽美子

俳句

阿南市俳句連合会選

塀を越え皇帝ダリア微笑みぬ

静謐の峰宮参り初日の出

大屋根の安寧守る初日影

思わざる長居の帰途や月冴ゆる

冬椿見上げる先の真つ赤なり

約束の着信音や冬木の芽

焼芋を頂き避難訓練終ふ

思い出に浸る山畑寒鴉

五日にて富士の麓へ戻りけり

なるようになるしかないと春待てり

河内 音

山野 賢治

青木 慧

谷中喜代子

東明 陽子

中川よし子

末岐 美子

岡本 隆子

末広なおむ

中分 明美

川柳

阿南川柳会 選

変わらないか只それだけの父の愛

あなただけが頼りなんです旦那様

うっかりは遺伝するのかもしれないのか

冷凍のごはんチンしてハイどうぞ

ああ怖いモミシマークに追い越され

不揃いの野菜有機という誇り

ラグビーのルール覚えて熱入る

一般応募

渡邊 浪漫

二階千代美

近藤 大地

多田紀久代

西田 修身

原 公美子

持木 寿栄

秋川 和子

島尾美津子

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

琴江川

原 美智子

銀波漾漾琴江流

琴江の流れ

朝夕佳音誘鴨游

鴨游を誘う

漫歩只看春靄裏

春靄の裏

飛花片片入輕舟

輕舟に入るを

線路・道路兩用車

吉形 和恵

道路鐵輪兼用車

兼用の車

海陽百里再再過

再再として過ぎたり

不看世界先行巧

世界先行の巧

挑戰未休情作渦

挑戰未だ休まず情渦を作す

太龍寺舎心嶽弘法大師坐像

田中 公

衣荒風雨千尋嶽

千尋の嶽

身富春秋十九齡

身は春秋に富む 十九の齡

百萬眞言有誰應

誰有りてか応えん

虛空菩薩曉天星

虚空の菩薩 曉天の星

